

JICA 留学生、有田市でみかん産業の発展について学ぶ

～和歌山大学と JICA 関西のコラボ企画～

独立行政法人国際協力機構関西センター（JICA 関西）は、和歌山大学との連携覚書（2022年3月14日締結）に基づいた協力の一環として、和歌山大学の知見や地域リソースを活用した「地域理解プログラム」^{※1}を2022年度より実施しています。2023年度は、11月12日（日）、JICA 留学生^{※2}13名（アジア・アフリカ・中南米より10か国）を対象に和歌山県のみかん産業について学びます。

当日、JICA 留学生たちは和歌山県有田市宮原地区へ赴き、和歌山大学観光学部の学生たちが取り組む「青みかんの価値を上げる」活動^{※3}について学び、学生たちと意見交換を行います。

また、同活動の連携先の1つである株式会社早和果樹園では、生産から加工、販売まで一貫して行う6次産業ビジネスモデルにより「みかん1個の価値」を高める取り組みについて理解を深めます。当日開催される「アグリファンフェスタ」では地域の方々と交流し、みかん狩り体験も行います。

1日のプログラムの中で、みかん産業のみならず、少子高齢化・地域活性・環境問題など様々な地域の課題と解決方法を学び、自国の課題解決や発展のためのヒントを得ることを目標としています。

JICA 留学生たちの学びやユニークな発想を肌で感じていただけますので、ぜひ有田市での取材をご検討ください。お問い合わせ・取材申し込みは、下記担当者までご連絡をお願いします。

（日時、場所、プログラム）

2023年11月12日（日）※雨天決行

時間	場所	内容
10:00-11:00	有田市宮原地区「宮原さん家」	大学生活動紹介「青みかん地域連携プログラム」
11:30-14:45	株式会社早和果樹園	事業紹介、アグリファンフェスタ、みかん狩り
15:00-15:45	有田市宮原地区「宮原さん家」	フィールド活動の共有、振り返り、総括

※1：JICA 留学生が日本の近代化の歴史や発展を深く知ることを目的としたプログラム。研究活動や日本での生活、インターンシップ、帰国後母国の発展のための活動に活かすことが期待されます。

※2：開発途上国の行政官、研究者、民間企業出身者など、JICA の人材育成プログラムで来日し、日本の大学院（修士課程／博士課程）で学ぶ留学生。将来、国の発展を支えるリーダーとなり、日本と途上国をつなぐ架け橋となることが期待されています。現在、関西2府4県の12の大学院でアジア、アフリカ、中南米などから約270名が学んでいます。

※3：和歌山大学観光学部独自の教育プログラム「地域連携プログラム(Local Partnership Program: LPP)」の活動として、有田市宮原地区の地域の方々とともに、生産途中で間引かれ廃棄される青みかんの新たな価値の発見・向上を目指した商品の考案、広報、地域活性化などに取り組んでいます。

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 関西 開発大学院連携課 花木 仁奈
TEL: 080-7200-6450 e-mail: Hanaki.Nina@jica.go.jp